

～ 生命の種を蒔いて 地球を守ろう～

菜

なたね

種

第4号 2010年 夏

編集と発行

北栄町農業委員会
北栄町土下112 (北条庁舎)
(0858) 36-5567



「食」について考えるきっかけに

妻波パイオニアグループ

代表 阪本 知則

私たちは、妻波パイオニアグループといえます。妻波地区在住の20～40代の16名で構成され、主な活動としてJ A鳥取中央青年部活動や、地元の夏祭り、秋祭り、自治会行事への参加を行っています。今年度、地域の子供会と一緒に稲作体験事業に取り組んでいますので、その紹介をさせていただきます。

現在、日本は食料自給率の低下でたくさんの食べ物を外国に依存しています。私たちのまわりを見ても、農業後継者の減少だけでなく、少子化による次の世代の担い手自体が減少していることが深刻な問題となっています。人間にとって、ものを食べることは生きていく上で必要不可欠であり、この先どんな時代になっても、必ず誰かが食料を生産していかねばなりません。大人も子供も、そして地域みんなで「食」について考えるきっかけづくりができればいいな、と思い取り組みました。

6月に親子で田植えを行い、月に1度ある子ども会を利用して看板、案山子(かかし)作りを行いました。今後は刈り取り、はぜ掛け作業の後、収穫したお米を米粉に加工し、収穫祭と称してパンづくり体験も行う予定にしています。

種を蒔かなければ実りはありません。私たちの活動が、そんな小さな種蒔きになればとても嬉しく思います。



自分らしく・・・ これからも

杉川 一二美
(大谷)

農家に嫁いで二十年を迎えようとしています。県外から嫁いだ私は当初、方言がわからず、鎌の使い方一つとつても、手とり足とり教えてもらっての農作業でした。覚えることが沢山あり、毎日が大変新鮮でした。

なぜ、何も植わっていない片づけたあとのハウスに水をかけるのか。なぜ、ストックと大根が同じ仲間なのか。理由を聞くと、どんな作業にもすべて意味があるのだと知り、農業がおもしろくなりました。「なんで？どうして？」と夫をつかまえてはよく聞いたものでした。

平成十一年。私たち夫婦は、家族経営協定を締結し、それに合わせて農業基礎の勉強会を企画しました。「スイカって野菜？果物？」そんな疑問にもまじめに答えてくださり、毎回質問をするのが楽しみでした。

農業がしたくて農家に嫁いだわけではなく、夫が農家だったので私も農業をしています。そういう女性は多いと思います。まったく農業の知識のないまま従事するのですから、家族が先生。もう一歩踏み出して学ぶ場があれば、「うちと違つやり方がある」「もっと楽なやり方もある」「知らないことが沢山ある」ということもわかります。

また私は、自分らしい生き方をしたい、人として幅を持ちたい、今を存分に楽しみたいと思つた時、JAのフレッシュミズを立ち上げ部長になるチャンスに巡り合えました。部長として3年間、様々な活動を企画し、仲間の大きな輪が広がりました。また、全国各地にも友人ができました。この繋がりは、今後私を支えてくれるものと信じています。

百年以上続いてきた大菜スイカを、今こつとして受け継ぎ、次へつなげていくのは私達の役目です。畑と家の往復だけではなく、地域や子ども達の中へも入っていく、農家としての役目を果たし、しっかりと次の世代へバトンを渡していきたいと思つていきます。



磯江 知輝 (東新田場)

毎日暑い日が続く中ですが、今回は葉タバコ専業農家の若き後継者、東新田場の磯江知輝君、25歳の紹介です。



父秋善さんが体調を崩されたことがきっかけとなって会社を退職し、今では父の右腕として葉タバコの栽培にがんばっています。今年7月7日に結婚し、ますますがんばる理由ができたようです。

彼が語るには、これからの経営はタバコだけでなく、砂丘地の特性を生かした白ネギ、ラッキョウなども経営に入りたいと考えているようです。

取材したこの日は、仕事の合間に早朝から仲間たちとヘリコプターによる水稲防除をしていました。若さには力があります。自然相手の農業には厳しさと同時に大きな魅力があるとあります。磯江君の発想力と行動力に期待します。(前田浩明委員)



がんばってます！ 農業後継者！

塚本 茂雄 (大谷)

現在、北栄町農志会(青年農業者組織)の会計、大谷フロンティアグループの会員としてがんばっておられます。また今年の夏は、西瓜選果場の検査員として、



厳しい目でスイカをたたいておられる姿を目にしました。

就農3年目。ほかの仕事も経験された後、大規模農家の後継者として就農されました。春から夏にかけて、スイカ、夏から冬にかけて、ストック、シントップウユリ、アスターを70a栽培されるそうです。

今年の5月に娘の咲希ちゃんも誕生し、お父さんとして、風呂、洗濯、そうじ等、自分のできることは協力していきたいとの事です。目標はスイカと花で表彰されること。

若手農業後継者として、心身とも充実して目標を必ず達成してほしいものです。(森本真理子委員)

シリーズ 農業委員活動

～農業委員ってどんなことをしているの？わかりやすくご紹介します～

優良農地の確保と有効利用

(1)農地の利用調整(土地利用の合意形成)
農地を売りたい・貸したい農家と、買いたい・借りたい農家との間に入って、調整やあっせん活動を行います。

(2)農地パトロールの実施

地域の農地利用を1筆ごとに点検し、不適正な農地の権利取得や違反(無断転用)・産業廃棄物の不法投棄、遊休農地などの発生防止、解消に努めます。結果は農地基本台帳の整備・補充にも利用され、農地の適正管理、農地行政の秩序化に一役買っています。

転用とは、農地を宅地などの農地以外の目的に利用すること。県知事等の許可が必要で違反者には罰金が科せられます。

農は食につながり、命につながる

北条学校給食会 代表 淀瀬 千賀子

J A北条女性会学校給食会(会員27名)は、学校給食における食べ残しの量の多さに危機感を持ち、地産地消、トレーサビリティへの取り組みなど、食の安全、安心を求める意識が高まる中、子ども達はもちろん、保護者にとっても安心できる農産物を子ども達に食べさせたいとの思いから平成14年に給食会を立ち上げました。(1日約1300食の供給)

「地産地消」は「身土不二」という理念からきているそうです。わかりやすく言えば、「三重四方の土地でとれたものを食べるのが、心にも身体にもなじんでよい。体と自然は一体ということだそうです。」

その言葉どおり、北条の野菜が北条っ子の体に合ったのか、残菜がなくなると聞かされました。そうは言っても給食野菜にはたくさん条件があります。規格のこと、虫のこと、価格、必要量等々……。今でもいろいろな問題が起きますが、

月に1回開催される「学校給食地産地消検討会」の場で協議されます。

給食会を立ち上げて8年になります。この取り組みを多くの町民に知ってもらおうと、町の助成を受け、北条幼稚園の園児の協力を得て、野菜畑に立てる看板を作成しました。

子ども達のかわいい野菜の絵の書かれた「きゅうしよく畑」の看板は、町内のあちこちで町民の目に触れています。そして何より子ども達が毎日通る通学路



また、年に数回、幼稚園、小学校、中学校に出かけ、子ども達と一緒に給食を食べるなどして交流を深めており、地域の人の関わりを深め、郷土を愛する心を育てようと生産者の顔の見える環境づくりに努めています。

また、学校では教えられないこと、経験できないことを子ども達に体を通して教え、農業が食につながり、命につながることに興味を持ってもらいたいと思います。

子ども達にとって給食は、学校生活の中で一番楽しい時間です。そんな楽しい時間に私達の野菜も参加でき、子ども達の成長に協力できることに喜びを感じます。

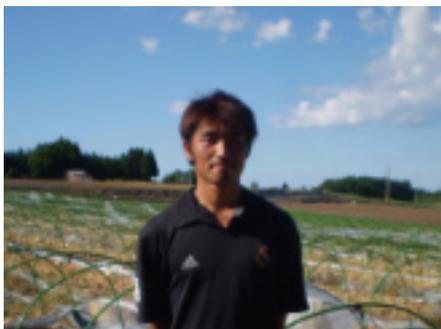
そして、北条町と大栄町が合併し、北栄町となって5年が経ちます。学校給食センターも今年10月に統合して新しく生まれ変わります。それを機会に給食会も北条、大栄のJA女性会が力を合わせて農産物供給をすることになりました。

まだまだ北条、大栄となじみの言葉が口から離れませんが、一日も早く給食を通して「北栄町の味」として子ども達の心に残るよう、今後安心、安全な農産物栽培を心がけていこうと思います。

トレーサビリティ 食品がどのようにつくられ加工されたかなど生産、流通過程の情報を追跡する仕組み

に設置されており、看板を通して子ども達に野菜に対する親しみを感じてもらいたいと願っています。

耕作放棄地が農地に再生されました！



竹信 慶一(25) 下種

農業委員会の課題のひとつは、遊休農地の解消です。今回は耕作放棄地再生利用事業()を活用して、山林化していた農地を再生された例を紹介します。

竹信慶一さんは、下種字北坂ノ峯西平にある20年以上放置されて山林化していた30aの畑を農地に戻しました。本年はじめに業者に土地をならしてもらって堆肥を投入し、ソルゴーを播いて地力増進をはかっています。また、来年にはプロックリーの作付けを予定しています。

農業委員会では、がんばっている農家の方をいつでも応援しています。そして、竹信さんのファイトに拍手を送ります。(齋尾智弘委員)

5年以上借り受けた耕作放棄地を利用者に代わって協議会が再生し、再生した農地を利用していただきます。

現在ソルゴーは1mくらいまで大きくなっています



農地流動化情報

各集落や地区内における農地の売買契約、貸借契約に至らなかった土地について、地区外などからも広く対象者等を募ることを目的として、流動化の情報を公開します。

詳細については「農地流動化情報台帳」として農業委員会で閲覧できます。

買い手、借り手の方については、耕作面積等農家要件が必要です。

掲載を希望された情報です。

《売りたい・貸したい》

	農地の所在	地目	面積(a)
1	江北 応神谷	畑	14
2	国坂 西九鳥(売買)	田	14
3	瀬戸 柴尾(売買)	畑	3
4	下種 横山(貸借)	畑	3
5	下種 井尻(貸借)	田	14
6	下種 竹谷(2筆 貸借)	畑	20
7	大谷 池尻(3筆 売買)	畑	6
8	大谷 浜ノ市(売買)	田	20
9	大谷 西平(売買)	畑	39

いきいき農業塾

～JAからのお知らせです～

「JA鳥取中央」では新規就農者、家庭菜園者などへの栽培指導などを行っています。

目的 農業基盤の拡充・活性化および、直売所出荷者などの育成支援
対象者 新たな就農者、直売所、野菜市などへの出荷を目指す生産者、自家消費を目的とした家庭菜園者

期間 10月から翌年9月までの1年間で12回
費用 年間2千円+その他費用は実費となります。
問い合わせ先

北栄管農センター 指導課(49 1140)

基本プログラム(例示)

- 10月 開講式 11月 農業について
- 12月 花づくりの基礎について
- 1月 果菜類づくりのポイント 2月 葉菜類づくりのポイント
- 3月 根菜類づくりのポイント 4月 現地での栽培研修
- 5月 秋冬野菜づくりのポイント 6、7月 現地での栽培研修
- 8月 研修 9月 閉講式

(河原廣美委員)

芝の種類にご注意ください！！

近年、維持管理が容易な「鳥取方式」といわれる洋芝を利用した緑化方法が普及しています。それに伴い、一般家庭でも洋芝を植える例が見られるようになりました。

しかし、この洋芝は大変繁殖力が強いいため、長年北栄町で栽培されてきた日本芝の中に簡単に混入してしまいます。

鳥取県産の日本芝は、長年の品質管理努力で洋芝等を排除してきたため、混入のない均一な日本芝として日本の品質評価を受けています。この高い評価を受ける芝生の品質、産地を守るため、ご家庭では洋芝の利用を控えていただくようみなさまのご協力をお願いいたします。

問合せ先

北栄町産業振興課(36・5565)

鳥取県芝生産指導者連絡協議会

(鳥取県芝生産組合内 52・2278)

魅力いっぱい 農業者年金

農業に従事する人は広く加入できます！

20歳以上60歳未満
国民年金の第1号被保険者
年間60日以上農業に従事

- ・ 以上3項目を満たす方なら
- ・ 農地を持っていない農業者、
- ・ 配偶者、後継者などの家族従事者も加入できます。
- ・ 少子高齢化に強い年金です！
- ・ 年金原資を自分で積立てるため、安定した運用が期待できます。
- ・ 終身年金で80歳までの保証付き！
- ・ 80歳前に亡くなられても遺族に一時金が支給されます。

〔編集後記〕

暦の上では立秋を迎えたというのに、残暑どころか猛暑日が続く毎日です。

そしてこれ程毎日のように熱中症のニュースが報道される年はなかったと思います。家の中で熱中症で死亡されていたお年寄りの家庭の事情に「どうして・・・」と悲しくなります。

そして宮崎県の口蹄疫の件では農家の方々の心情を考えると言葉になりません。ただ、日本中の人が心から「がんばって」と祈る思いで応援しています。

そんな中、北栄町においては大豆スイカが目標販売額より1億円多い18億円突破という大変うれしい報告がありました。春先の天候不順に悩みながらも、すばらしい結果が出せたことは生産者の特産ブランドを守るといって強い意志と努力の結果だと思えます。

まだまだ暑さは続きますが、熱中症には十分気をつけて生活しましょう



広報委員

淀瀬千賀子 河原廣美 前田浩明

森本真理子 太西仁美 齋尾智弘